

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	南あわじ市立辰美小学校 職・氏名 主幹教諭 山川 直樹	研究チーム名 ( 特別支援教育研究会「かざぐるま」 )
-----------------	--------------------------------	--------------------------------

研究テーマ分類番号 ( 9 )

(1) 研究テーマ
どの子も熱中し、楽しく活動する授業づくり ～特別支援教育の視点から～
(2) 研究経過及び具体的な取組
<p>6月29日 校内研究授業と研究協議</p> <p>講師による授業参観</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生国語「おむすびころりん」</li> <li>・ 4年生算数「四角形をつくろう」</li> </ul> <p>職員研修</p> <p>講師：洲本市教育発達アドバイザー</p> <p>内容：一斉授業における特別支援対応について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 研究授業での児童の様子と授業者の対応について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行動を切り替えるときは短く指示する。</li> <li>・ フラッシュカードなどで授業のリズムを作った方がいい。</li> <li>・ 「こうしましょう。」と言って、できたらほめる。</li> </ul> </li> <li>② 発達障害について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多動性をコントロールできないのに叱られる。→自己肯定感が下がる。</li> <li>・ 発達に偏りがある。(これができるのに、これはできない。)</li> <li>・ 聴覚優位か視覚優位かを見定める。</li> </ul> </li> <li>③ 質疑応答(個別の対応について)</li> <li>④ 今後の改善のポイントなど <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室はシンプルにする。前面掲示はできるだけ避け、横や背面を使う。</li> <li>・ 先生自身や、黒板に集中できるようにする。</li> <li>・ 授業は実験と考え、最善を見つける努力をする。</li> <li>・ うまくいっている時はどんな時か。「こうするといい」という事例を集める。</li> <li>・ 指導方法を工夫する。</li> </ul> </li> </ol> <p>成果：指示の出し方など、工夫のポイントが分かった。</p> <p>11月2日 校内研究授業と研究協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年道徳「半日村」</li> </ul> <p>研究協議</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①特別支援対応の視点から <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視覚入力を助けるために、電子ボードで挿絵を写して、話の中身の理解を助け</li> </ul> </li> </ol>

る。

- ・二者択一の発問で、立場をはっきりさせ、理由が言えるようにする。

②授業改善ポイントについて

- ・増やしたい行動は「ほめる」。
- ・できたら減らしたい行動は「無視する」。(教師への暴言)
- ・絶対に辞めさせたい行動は「断固として止める」。

(人に対する暴力。「命」「いじめ」「差別」につながる行為。明らかな授業妨害など。)

- ・効果があった指導、効果がなかった指導について集める。

③「発達障がい児本人の訴え」(東京教育技術研究所)の読み合わせ

- ・資料を読み合わせて、意見交流を行った。

12月8日 校内研究授業と研究協議

- ・4年生算数「分数」
  - ・1年生図工「とびだせによきによき」
  - ・「休み時間」「帰りの会」「帰りの用意」：1年生
- \*トラブルが起りやすい時間帯を講師に参観してもらう。

講義：「どの子ども熱中し、楽しく活動する授業づくり」

講師：洲本市教育発達アドバイザー

授業改善のポイント(全体に対して)

- ・「おこる」よりも「ほめる」。行為をほめる。自尊心を高める。うれしそうにしていなくても、内面はうれしい。
- ・「増やしたい行動」はほめる。
- ・「減らしたい行動」は無視する。
- ・退屈していたり、分からなかったりしたときに、問題行動が出る。だから、授業で「退屈」状態と「わからない」状態をなくしていく。
- ・どんな言い方、どんな伝え方がいいか。こちらの関わり方で変わってくる。

成果：同じ講師に2回来てもらったので、継続的な取り組み方が分かった。子どもたちにとって、「必要な支援」を今後も研究していく。